

「ナザレ再訪問」

§ 068 マタイ 9 : 27~34

§ 069 マコ 6 : 1~6

1. はじめに

(1) 文脈の確認

- ①イエスの公生涯は、弟子訓練の段階に入っている。
- ②きょうの箇所も、弟子訓練という文脈の中で読む必要がある。
- ③きょうは、2つのセクションを取り上げる。

(2) § 68 ふたりの盲人の癒しと口のきけない悪霊の追い出し

- ①マタイの福音書だけに出てくる。
- ②ベルゼブル論争の結論が、日常的に繰り返される。

(3) § 69 ナザレ再訪問

- ①マルコとマタイに出てくる。
- ②最初の訪問との相違点、類似点に注目しよう。

(4) A. T. ロバートソンの調和表

「ふたりの盲人の癒しと口のきけない悪霊の追い出し」 (§ 68)

マタイ 9 : 27~34

「ナザレ再訪問」 (§ 69)

マコ 6 : 1~6、マタイ 13 : 54~58

2. アウトライン

(1) ふたりの盲人の癒しと口のきけない悪霊の追い出し (マタイ 9 : 27~34)

- ①ふたりの盲人の癒し (27~31 節)
- ②口のきけない悪霊の追い出し (32~34 節)

(2) ナザレ再訪問 (マコ 6 : 1~6)

- ①会堂で教えるイエス (1~2 節 a)
- ②人々の反応 (2b~3 節)
- ③イエスの嘆き (4~6 節)

3. 結論 :

- (1) 証しの在り方
- (2) 弟子訓練の内容

イエスの弟子訓練について学ぶ。

くふたりの盲人の癒しと口のきけない悪霊の追い出し(マタ9:27~34) >

I. ふたりの盲人の癒し(27~31節)

1. 27節

「イエスがそこを出て、道を通って行かれると、ふたりの盲人が大声で、『ダビデの子よ。私たちがあわれんでください』と叫びながらついて来た」

- (1) 盲人にとっては、イエスは希望の源であった。
 - ①メシアが来られると、盲人の目が開かれるという信仰があった。
 - ②根拠になっている聖句は、イザ61:1である。
 - ③彼らの肉体の目は閉ざされていたが、霊の目は開かれていた。
- (2) 「ダビデの子」という呼びかけ
 - ①メシアのタイトルである。
 - ②マタ1:1
「アブラハムの子孫、ダビデの子孫、イエス・キリストの系図」
 - ③イエスがこのタイトルを用いることはなかった。
 - ④イエスは、「人の子」というタイトルを用いた。
 - ⑤彼らには、イエスをメシアと信じる信仰と、その信仰に基づく熱心さがあった。
- (3) イエスが彼らを見下していることに注目すべきである。
 - ①公の場での対話はない。

2. 28節

「家に入られると、その盲人たちはみもとにやって来た。イエスが『わたしにそんなことができるか』と言われると、彼らは『そうです。主よ』と言った」

- (1) その盲人たちが家に入ると、そこは私的空間となった。
 - ①そこで初めてイエスは彼らと対話された。
- (2) イエスは彼らの信仰を確認された。
 - ①パリサイ人たちがイエスを公に拒否する前は、信仰に関する質問はなかった。
 - ②拒否以降、イエスは癒しを求めて来る人の信仰を確認するようになった。
 - ③癒しを受け取る条件は、イエスをメシアとして信じる信仰である。

(3) 彼らは信仰を告白した。

- ①「そうです。主よ」
- ②「ナイ、キュリエ」
- ③ギリシア語の「キュリオス」は、イエスの神性を示す。

3. 29～30 節

「そこで、イエスは彼らの目にさわって、『あなたがたの信仰のとおりになれ』と言われた。すると、彼らの目があいた。イエスは彼らをきびしく戒めて、『決してだれにも知られないように気をつけなさい』と言われた」

(1) イエスによる癒し

- ①目にさわった。
- ②「あなたがたの信仰のとおりになれ」と言われた。
- ③癒しはただちに起こった。

(2) イエスの命令

- ①沈黙の命令
- ②これは、イエスの新しいポリシーである。

4. 31 節

「ところが、彼らは出て行って、イエスのことをその地方全体に言いふらした」

(1) 癒されたふたりの人は、イエスの命令に従わなかった。

II. 口のきけない悪霊の追い出し (32～34 節)

1. 32～33 節 a

「この人たちが出て行くと、見よ、悪霊につかれて口のきけない人が、みもとに連れて来られた。悪霊が追い出されると、その人はものを言った」

(1) これは、メシア的奇跡である。

2. 33b～34 節

「群衆は驚いて、『こんなことは、イスラエルでいまだかつて見たことがない』と言った。しかし、パリサイ人たちは、『彼は悪霊どものかしらを使って、悪霊どもを追い出しているのだ』と言った」

(1) 群衆は驚き、イエスは誰なのかと当惑した。

①メシア的奇跡を見たから。

(2) パリサイ人たちは、冒流的な言葉を吐いた。

①ベルゼブル論争の再現

②ベルゼブル論争以降、この説明が頻繁に行われるようになっていた。

<ナザレ再訪問 (マコ6:1~6) >

I. 会堂で教えるイエス (1~2節 a)

1. 1~2節 a

「イエスはそこを去って、郷里に行かれた。弟子たちもついて行った。安息日になったとき、会堂で教え始められた

(1) カペナウムからナザレへ

①南西約30キロ

②この訪問は、弟子たち全員を訓練するためのものでもある。

(2) ナザレでの最初の拒否

①ルカ4:16~30

②公生涯の始まりに、故郷を訪問した。

③人びとは、イエスのメシア宣言を拒否し、イエスを殺そうとした。

(3) ナザレ再訪問

①イエスの名声が広まった段階での訪問である。

②イエスは、弟子たちを引き連れた高名なラビとして故郷を訪問した。

③ナザレの人びとに再度チャンスが与えられた。

④ナザレの人びとによる最終的な拒否が確定する。

(4) イエスによる安息日の重視

①教えの内容は、律法と預言者である。

II. 人々の反応 (2b~3節)

1. 2節 b

「それを聞いた多くの人々は驚いて言った。『この人は、こういうことをどこから得たのでしょうか。この人に与えられた知恵や、この人の手で行われるこのような力あるわざは、いったい何でしょう』」

(1) 「この人は、こういうことをどこから得たのでしょうか」

- ①直訳は、「どこから、こいつに、こういうことが」
- ②ギリシア語では3語。「πόθεν τούτω ταῦτα」
- ③英語では、「Where did this man get all this?」 (RSV)
- ④軽蔑のニュアンスが込められている。

(2) 「この人に与えられた知恵や、この人の手で行われるこのような力あるわざは、
いったい何でしょう』

- ①イエスの知恵は否定していない。
- ②イエスが奇跡を行ったことも否定していない。
- ③彼らは、イエスの力には何かの仕掛けや裏があると怪しんだ。

2. 3節

「『この人は大工ではありませんか。マリヤの子で、ヤコブ、ヨセ、ユダ、シモンの兄弟
ではありませんか。その妹たちも、私たちここに住んでいるではありませんか。』こう
して彼らはイエスにつまずいた」

(1) イエスの職業は大工である。

①ルカ9:62

「だれでも、手を鋤につけてから、うしろを見る者は、神の国にふさわしくあり
ません」

②マタ11:29

「わたしは心優しく、へりくだっているから、あなたがたもわたしのくびきを負
って、わたしから学びなさい。そうすればたましいに安らぎが来ます」

(2) 「マリヤの子」

- ①父親のヨセフの名は出ていない。恐らくすでに死んでいたのであろう。
- ②その場合でも、通常は父の名を出すものである。「ヨセフの子イエス」
- ③母親に問題のある子の誕生の例

*士11:1~2、ヨハ8:41、9:29 参照

④イエスの不自然な誕生が暗示されている。

(3) イエスの兄弟姉妹たち

①ヤコブ、ヨセ、ユダ、シモン

*ヤコブは、初代教会の指導者となった(使15:13~21 参照)。

*ヤコブの手紙の著者となった。

- ②姉妹たちは複数形なので、少なくとも2人以上いた。
 - ③イエスには、少なくとも6人の異父兄弟姉妹たちがいた。
 - ④これは、カトリックの教理(マリアの処女性)を否定する内容である。
- (4) 「こうして彼らはイエスにつまずいた」
- ①つい最近まで近所に住んでいた者が、預言者のように振る舞っている。
 - ②プライドが許さない。

III. イエスの嘆き (4~6 節)

1. 4 節

「イエスは彼らに言われた。『預言者が尊敬されないのは、自分の郷里、親族、家族の間だけです』」

- (1) イエスは自らを預言者の位置に置いている。
 - ①すでにメシア宣言は終わっているが、ここでは預言者として教えている。
- (2) それがナザレの人びとには受け入れられない。
 - ①ナザレは、イスラエルでは軽蔑されていた地である。
 - ②軽蔑されていた者たちが、イエスを軽蔑している。
 - ③偏見と不信仰の恐ろしさを思う。
- (3) イエスの格言
 - ①エリヤもバプテスマのヨハネも、親しい人たちからは拒否された。

2. 5~6 節

「それで、そこでは何一つ力あるわざを行うことができず、少数の病人に手を置いていやされただけであった。イエスは彼らの不信仰に驚かれた。それからイエスは、近くの村々を教えて回られた」

- (1) 少数の病人だけが癒された。
 - ①公生涯のこの段階では、信仰が癒しを受けるための条件になっている。
 - ②イエスは、彼らの不信仰に驚かれた。
- (2) イエスは、ナザレを去って近くの村々を教えて回られた。
 - ①再びナザレに戻ることはなかった。

結論：

1. 証しの在り方

- (1) 2人の盲人は、嬉しさのあまり、イエスのことをその地方全体に言いふらした。
- (2) イエスのポリシーは、沈黙すること。誤ったメシア理解を与えないためである。
- (3) 言い広めることではなく、イエスに従うことこそ真の感謝の表現である。
- (4) 証しをする際の吟味項目
 - ①自分の成功を自慢していないか。
 - ②聞く人に不快感を与えるような失敗談を披露していないか。
 - ③沈黙のタイミングに敏感か。
「愚か者でも、黙っていれば、知恵のある者と思われ、そのくちびるを閉じていれば、悟りのある者と思われる」(箴17:28)
 - ④イエス・キリストを通して父なる神をたたえているか。

2. 弟子訓練の内容

- (1) 12使徒を2人ずつにして派遣する時期が近い。
- (2) ナザレ再訪問には、12使徒全員が随行した。
- (3) そこで彼らは、御子イエスがナザレの人たちに拒否されるのを目撃した。
- (4) ナザレはイスラエル全体の型である。
 - ①イスラエルが最終的にメシアを拒否するのは、ヨハ11:45~54である。
「そこで彼らは、その日から、イエスを殺すための計画を立てた」(ヨハ11:53)
- (5) イエスの体験は、イエスに従う者たちの体験となる。
 - ①イエスが体験した孤独は、弟子たちの体験となる。
 - ②最も近い者たちから誤解されることは、弟子たちの体験となる。
- (6) 弟子たちに要求されるのは、成功することではなく、忠実であるということ。
- (7) **ピリ2:6~9**
「キリストは神の御姿である方なのに、神のあり方を捨てられないとは考えず、ご自分を無にして、仕える者の姿をとり、人間と同じようになられました。人としての性質をもって現れ、自分を卑しくし、死にまで従い、実に十字架の死にまでも従われました。それゆえ神は、この方を高く上げて、すべての名にまさる名をお与えになりました」
- (8) **ピリ2:13**
「神は、みこころのままに、あなたがたのうちに働いて志を立てさせ、事を行わせてくださるのです」